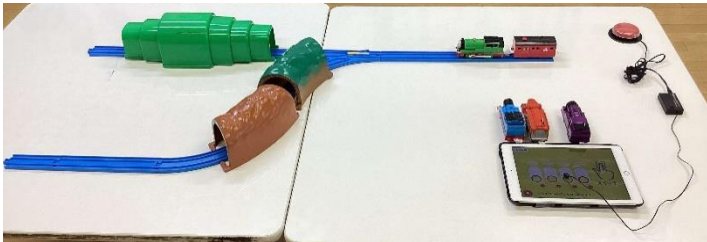


教材・支援機器活用実践事例【ICT】

注視や集中する力を養うための ICT 活用

「数量の基礎、ものの永続性への気付き」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・小学部 1 年
	障がい名等	肢体不自由・知的障がい
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	・自分の興味・関心のあること以外に関しては、注意を向けたり、集中を持続させたりすることが難しい。 ・小集団での学習経験の少なさから、友達への意識が向きづらい。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	算数科
	単元(題材)名	題材名「どこからでるかな」(さんすう☆)
	単元(題材)の概要	・本題材は算数科 1 段階〔A 数量の基礎ア (ア) (イ)〕の内容であり、レール上を走る電車がトンネルを通る時、見えていたものが見えなくなっても、それはものがなくなったわけではなく、一時的に見えなくなっているということ、再び見えるということについて学習する。動いているものに対する「ものの永続性」への気付きを本題材のねらいとする。
教材・教具 支援機器について	教材・教具 支援機器	タブレット端末、プラレール、電池型 lot (MaBeee)、スイッチ (i+Pad タッチャー)、アプリ (MaBeee-コントロール) 
	ねらい・工夫点	〈ねらい〉 ○タブレット端末につないだスイッチを押し、児童自身が電車を動かしたり止めたりすることで、より対象物を注視したり集中を持続させたりすることができるようにする。 〈工夫点〉 ・トンネルの中に入って隠れても、電車自体は存在していることが理解できるように、音が鳴る電車を走らせた。 ・電車に注意を向け続けることができるように、レールの途中に分岐点をつくり、電車の動きに変化をつけた。
	材料・作成方法等	・タブレット端末のアプリ (MaBeee-コントロール) を起動し画面上に i+Pad タッチャーを付け、実態に応じたスイッチをつなぐ。 ・電車には MaBeee を入れ、遠隔で操作できるようにした。
子どもの変容や評価		・児童がスイッチを押してプラレールの電車を操作することで、注視することにつながり、どのレールに行くのか、どのトンネルから出てくるかを見続けることができるようになった。また、友達が操作する電車にも興味を示すようになった。